



# ベンタゾン液剤による東北地域ダイズ主要品種の初期薬害と収量への影響

水田利用部 雑草制御研究室 電話0187-66-2771

## 研究のねらい

広葉雑草対象新除草剤ベンタゾン液剤をダイズ栽培に有効利用するため、東北地域の主要ダイズ品種について、本剤による初期薬害の品種間差を明らかにするとともに、主要品種中でベンタゾン感受性が高いタチユタカについて、薬害の発生と気象条件との関係および初期薬害と収量との関係を明らかにする。

## 成果の内容

- ① タチユタカの薬害程度は「中」で、東北地域の主要品種中では最もベンタゾン感受性が高く、おおすず、スズカリ、スズユタカ、タチナガハ、ナンブシロメ、ミヤギシロメ、リュウホウなどは薬害程度「小」である(図1、表1)。
- ② タチユタカの初期薬害は、処理日と処理翌日の日照時間が長いほど強く、その程度はダイズ5～6葉期処理に比べて2～3葉期処理で大きい(図2)。
- ③ タチユタカの2～3葉期処理および5～6葉期処理において、処理3週間後の生育抑制率が60%以上の場合、25%以上の減収が見込まれる(図3)。



タチユタカ

おおすず

図1 ベンタゾン液剤処理3日後の薬害症状

表1 ベンタゾン液剤処理による大豆品種の薬害程度

薬害程度	品種名	主な薬害症状	初期薬害 <sup>1)</sup>		収量 <sup>2)</sup>	
			平均	範囲	平均	範囲
大	新2号 <sup>3)</sup>	枯死、落葉・褐変	75	(50~100)	20	(39~0)
	操 <sup>3)</sup>	枯死、落葉・褐変	77	(53~100)	26	(52~0)
中	新4号 <sup>3)</sup>	落葉・褐変・縮葉	34	(23~45)	83	(95~71)
	タチユタカ	落葉・褐変・縮葉	36	(12~75)	80	(90~60)
	ゆめみのり	落葉・褐変・縮葉	28	(2~65)	86	(98~65)
小	おおすず	褐変・色抜け	1	(0~2)	99	(104~92)
	スズカリ	褐変・色抜け	7	(0~20)	102	(109~93)
	スズユタカ	褐変・色抜け	6	(0~17)	102	(113~90)
	タチナガハ	褐変・色抜け	3	(0~7)	99	(107~94)
	ナンブシロメ	褐変・色抜け	3	(0~12)	96	(105~87)
	リュウホウ	褐変・色抜け	4	(0~12)	100	(106~95)
			6	(0~27)	98	(107~91)

注1) 処理1週間後の遠観調査により、無処理区に対する生育量の減少比率(%)で示した。  
 2) 無処理区子実重に対する処理区子実重の比率(%)で示した。  
 3) 現在栽培されていないが感受性が高いとされる品種を比較対照として用いた。  
 4) データは2003年と2004年に実施したダイズ2～3葉期処理、5～6葉期処理、開花前処理の結果。  
 5) 薬害「小」欄については、東北地域における主要品種のみを掲載した。

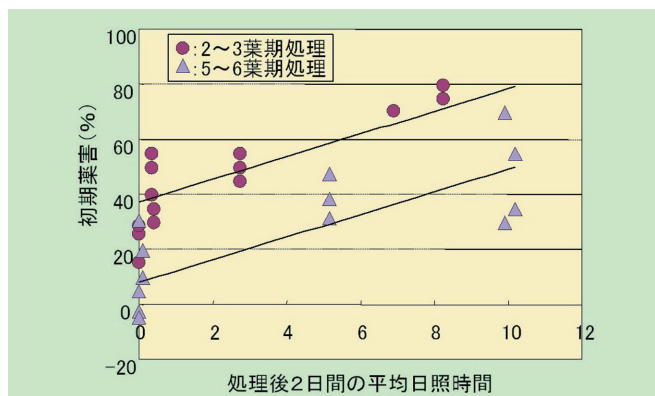


図2 タチユタカにおける日照時間と初期薬害との関係

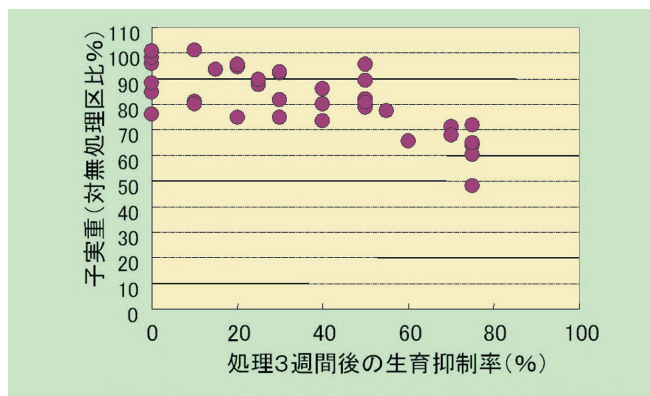


図3 タチユタカにおける処理3週間後の生育抑制率と収量との関係

## 成果の利活用

ダイズ栽培におけるベンタゾン液剤使用の可否およびその使用時期の決定に活用できる。

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構  
 東北農業研究センター  
<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/>

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4  
 TEL 019-643-3433(代表)  
 FAX 019-641-7794(代表)